

社会福祉協議会への「コロナ禍における困窮世帯の子どもへの支援について」アンケートの回答まとめ

※ まずは、社会福祉協議会へのアンケートの回答集をご覧になっていただければと存じます。ロータリークラブが主たる事務所を置く行政区画にある社会奉仕協議会の回答、また、回答が無い場合は、近隣の行政区画にある社会奉仕協議会の回答が参考情報になると存じます。

コロナ禍における困窮世帯の子どもへの支援について、どのような支援が行われているか、どのような課題があるか、そして、ロータリークラブとしてできることはないかを探るために、東京都社会福祉協議会などのご協力をいただき、2021年9月30日から10月29日までメール形式にてアンケートを実施しました。

東京北部は25社協にアンケートを送信し、16社協から回答を得ました（回答率64%）。また、沖縄分区分は那覇社協と浦添社協から回答を得ました。

質問は以下のとおりです。

Q1: 社会福祉協議会が担当する区市町村のひとり親世帯の数を把握していましたが、次にご記入ください。

Q2: 社会福祉協議会が担当する区市町村の子ども食堂等の活動を行っている団体等の数を把握していましたが、次にご記入ください。

Q3: 上記2の活動に対して社会福祉協議会で支援を行っていましたが、その具体的な内容を次にご記入ください。

Q4: コロナ禍における困窮世帯の子どもへの支援についての課題がありましたら、次にご記入ください。

Q5: コロナ禍における困窮世帯の子どもへの支援についてロータリークラブへ求めるものがありましたら、次にご記入ください。

回答の傾向は以下のとおりです。

コロナ禍における困窮世帯の子どもへの支援について、地域の課題・ニーズに直接・間接に対応している社会福祉協議会の視点を介して東京北部・沖縄分区分地域の傾向の把握ができました。困窮世帯が急増し、支援が十分に足りていない（那覇市社協）という回答が現状を如実に表しています。しかしながら、地域により課題・ニーズは差異がありますので、必要となる支援も地域ごとに異なることとなります。

Q1: 社会福祉協議会が担当する区市町村のひとり親世帯の数を把握していましたが、次にご記入ください。

- ・ひとり親世帯の数、回答7社協（なお、那覇社協は社協として支援している数を回答）です。社協も実態の把握が難しくなっていることの現れではないでしょうか（Q4の回答につながります）。また、個人情報・プライバシーの壁もありそうです。
- ・なお、ひとり親世帯の比率に地域差があります。板橋区は約31万世帯に対して、ひとり親世帯は約4,500世帯となっています（全体の1.4%）。墨田区は、約15万世帯に対して、ひとり親世帯は約10,000世帯となっています（全体の6.6%）。浦添市は、約43,000世帯に対して、ひとり親世帯は約1,900世帯となっています（全体の4.4%）。

Q2: 社会福祉協議会が担当する区市町村の子ども食堂等の活動を行っている団体等の数を把握してしましたら、次にご記入ください。

- ・社協による団体の把握数の順は次のとおりです。
 - ①子ども食堂（お弁当配布を含む）（306）
 - ④子どもの居場所（175）
 - ⑤学習支援（138）
 - ②フードパントリー（71）
 - ③宅食（48）
 - ⑥生理用品配布（16）
 - ⑦DV・ネグレクト対策（8）。
- ・①子ども食堂（お弁当配布を含む）の地域のニーズが高いことがわかります。④子どもの居場所（175）は子ども食堂の要素もあるようです。ただし、いずれもコロナの影響により、開催や場所の確保が難しくなっているようです（Q4の課題より）。
- ・⑤学習支援は地域によりばらつきがあります。比較的、都市部でニーズが高いようです。
- ・②フードパントリー、③宅食は、比較的、都市部でニーズが高いようです。フードパントリーはマンパワーと食品の保管場所が課題となっているようです（Q3、Q4より）。なお、フードパントリーを社協自体が運営しているところもあります（板橋社協）。
- ・⑥生理用品配布は、比較的、都市部でニーズが高いようです。
- ・⑦DV・ネグレクト対策は、社協による団体の把握は少なくなっています。

Q3: 上記2の活動に対して社会福祉協議会で支援を行ってしましたら、その具体的な内容を次にご記入ください。

- ・全体として、社協から団体へ、「立上げ支援・運営支援などの活動支援」、「困窮世帯への情報提供」、「団体の広報協力」、「食料品などの物品提供」、「ボランティア・コーディネーターなどのマンパワー支援」、「対象者の紹介」、「助成金・補助金の交付」などが行われています。
- ・①子ども食堂（お弁当配布を含む）を行う団体へは（下記のカッコ内の数字は支援数です）、
 - 活動支援（10）、
 - 情報提供（8）、
 - 物品提供（7）、
 - 広報協力（6）、
 - 助成金・補助金の交付（5）、
 - マンパワー（4）、
 - 対象者の紹介（1）といった支援が行われています。
- ・④子どもの居場所を行う団体へは、
 - 活動支援（9）、
 - 情報提供（6）、

マンパワー支援 (6)、
広報協力 (5)、
助成金・補助金の交付 (4)、
物品提供 (3)、
対象者 (1)
といった支援が行われています。

- ・⑤学習支援を行う団体へは、

広報協力 (6)、
活動支援 (5)、
情報提供 (5)、
マンパワー支援 (5)、
物品提供 (2)、
助成金・補助金の交付 (2)、
対象者の紹介 (1)
といった支援が行われています。

- ・②フードパントリーを行う団体へは、

情報提供 (8)、
物品提供 (8)、
活動支援 (6)、
マンパワー支援 (5)、
広報協力 (4)、
対象者の紹介 (1)、
助成金・補助金の交付 (1)
といった支援が行われています。

- ・③宅食を行う団体へは、

物品提供 (6)、
活動支援 (4)、
情報提供 (3)、
マンパワー支援 (1)

といった支援が行われています。支援のレポーターが少ないことから、これからの活動であることが推測されます。

- ・⑥生理用品配布を行う団体へは、物品提供が主な支援となっています。

- ・⑦DV・ネグレクト対策を行う団体へは、行政とのつなぎ役を務めています。

Q4: コロナ禍における困窮世帯の子どもへの支援についての課題がありましたら、次にご記入ください。

課題については、「困窮世帯の実態・ニーズの把握が困難」、「困窮世帯へ情報が届いているかわからない」、「子ども食堂の開催が難しい」、「マンパワー不足・行政との連携不足」が目立ちました。社協ですら、困窮世帯の実態・ニーズの把握が困難としています。困窮世帯と社協の間に入る、一次的な現場で社協よ

りも身近に接する機会のある民生・児童委員が不足しているのも原因の一つかもしれません。

回答の代表的なものは次のとおりです。

- ・困窮についてはニーズが見えにくいため、把握が困難であること（千代田区社協）
- ・必要な情報が（子ども食堂等）届いているか分からない（新宿区社協）
- ・お弁当配布だけではきめこまやかなコミュニケーションができない。家や学校内に居場所のない子どもたちの集まる活動ができない（板橋区社協）
- ・区社協内の調理設備のある公共施設が利用中止となっているため、地域食堂の実施場所の確保が難しい（足立区社協）
- ・子ども食堂支援に係る寄付物品の保管や配送手段の確保（江戸川区社協）
- ・必要な子に必要な支援をつなげるには、マンパワーが足りない（那覇市社協）
- ・収入減、生活が大変な状態が長く続いている。困窮世帯の支援に焦点を当てて活動する既存の団体はこれまでつながった方への支援を続けることで手いっぱい、支援を広げることは難しい（中野区社協）

Q5: コロナ禍における困窮世帯の子どもへの支援についてロータリークラブへ求めるものがありましたら、次にご記入ください。

ロータリークラブへの要望については、

「物品や食品の寄贈」（9 社協）、

「金銭の寄附」（7 社協）、

「活動場所・保管場所の提供」（9 社協）

が目立ちました。「活動場所・保管場所の提供」（子ども食堂・学習支援の開催場所、フードパントリーの食品保管場所、学習支援の教材の保管場所など多様なニーズがあります）には、「物品や食品の寄贈」、「金銭の寄附」と同レベルのニーズがあります。子ども食堂の代替としてお弁当の配布が行われているところ、お弁当配布団体への寄付（（配付用の容器・輪ゴム・持ち帰り袋などの消耗品）（板橋区社協）という要望もありました

上記のほか、フードパントリー等イベントの実施（中野区社協）、支援品の配送ボランティア（足立区社協）、イベントや困りごとがあるときに気軽に相談できる存在（那覇市社協）、支援体制づくりのための意見交換及び協働（豊島区社協）、保護者等への就労の支援（働く場の提供）（新宿区社協）などの要望もありました。

最後に：

今回の回答を通して、社会福祉協議会の課題・要望にまずは関心を持っていただければと存じます。関心を持っていただいた後には、地区社会奉仕委員会へのお問合せ、社協へのヒアリングなどを行い、クラブにていかに応えていくかの検討を行うことになるかと存じます。

また、ロータリークラブが主たる事務所を置く行政区画にある社協は行っていないが（マンパワーや資金の不足などが原因と考えられる）、他の社協が行っている支援を促し、クラブでそのサポートすることを提案してみるという方法もいかがでしょうか？